

雜 錄

日 本 産 捲 柏 屬

(Japanese Species of *Selaginella*)

by

G. KOIDZUMI 小 泉 源 一

捲柏屬 (*Selaginella* POLISOT de BEAUVOIS. 1805.)

芽胞体は小形の草本にして多年生又は短命なり、生態は石松類の如く又は苔類に類似す。莖は一個の頂端細胞を有して頂端生長を成し以て單軸を形成し、又は頂端に二個の四面体細胞ありて其分裂増殖により又狀分岐を成し或は其より來れる假軸を形成す、莖は多角形、円柱形又は扁平形にして、直立し、斜上し、又は地上を蠕蜒し、又は蔓性攀緣す、多くは腹脊不同なり。中心柱は原生中心柱又は管狀中心柱にして往々第二次増大あり。節は往々明に關節をなす。上方の分枝は一般に扇狀分叉を成す。

根は又狀に分岐し、不定根を生ずる根柄は莖より生じて是を支へ、多くは莖の下部より生ずるも、蠕蜒するものありては遙か上方の節よりも生ず。

葉は小形、單一脈を有し、其細胞は往々唯一個の葉綠体を有す、舌片は無色なり。各葉は皆同形にして螺旋狀多列に排布し、又は兩形にして脊腹二様あり、四列に排布す、腹葉は左右二列に排布し大形にして側方に開出し、脊葉も左右二列に排列し小形にして莖面に密に平臥す、而も多少覆瓦様に重るものあり。

円錐穗は頂端に生じ、四隅を有し方形なり、各苞は皆同形なるか又は兩形なり、後者にありては各葉皆尋常葉と同一面に並列するも、亦然らずして小苞は却て大形葉と同一面に並列するものあり。

大芽胞囊と小芽胞囊とは同一の円錐穗にあり、前者は其數少くして下方に位し、時には唯一個のみにして最下に位す、後者は其數遙に多くして上方に位す。

芽胞囊は總て眞囊性にして、小形、側扁せる球形にして膜質、一室にして、小柄を有し又は之を有せず苞葉の腋に獨生し、二片裂をなす。

小芽胞囊内の小芽胞は其數甚多く、大芽胞は四個以下にして其内の唯一個のみ發生す。

芽胞は球形にして其面に三稜を有すを以て稍四面体の狀あり。

配遇体は何れも微小短命にして獨立自活の力なく、退化甚し。雌性原葉体は大部分芽胞膜内にあり、横隔膜によりて上下の兩部分に分れ、上部は生殖組織にして盤状を成し外部に露れ内に藏卵器を埋在す、下部は榮養部にして内乳を貯ふ。雄性原葉体は全く芽胞膜外に表るゝことなく唯一個の榮養細胞と一個の藏精子とより成るのみなり。授精は往々大芽胞囊内に止りつゝある間に行れ恰も種子植物の夫れに髣髴たるものあり。

胚は雌性原葉体の内乳によりて養はれ莖、葉、足、胚柄の四部より成る。

固有日本産捲柏屬檢索表

1. 各葉は皆同形にして螺旋狀多列に排布し、苞葉も皆各同形なり (**Homoeophyllum**) 2
 - 葉は兩型にして脊腹二様あり、四列に排布す、腹葉は左右二列に排布し、大形にして側方に開出し、脊葉も左右二列に排布するも小形にして莖面に密に平臥す (**Heterophyllum**) 4
2. 苞葉は螺旋狀に排列し葉と共に縁邊に長形の微鋸齒少數あり *Selaginella selaginoides*.
 - 苞葉は四列に排布し、葉は縁邊に纖毛を生じ脊面に縦の溝を有す 3
3. 植物体は稍太くして強く、葉枝の直徑 1 ミリ半以上に達し、大胞子の面には第一次綱目のみ著し *Selaginella sibirica*.
 - 植物体は纖細にして針金狀、葉枝の直徑は漸く 1 ミリに達す、大胞子の面には第一次の太き綱目と第二次の纖細なる綱目とあり *Selaginella shakotanensis*.
4. 苞葉は總て同型である (**Stachygynandrum**) 5
 - 苞葉は兩型にして、小苞は大形葉と同一面上に並列し、大苞は小形葉と同一面に並列す (**Heterostachys**) 12
5. 多莖直立束生し匍枝を出さず、根は莖束の基部より多數簇生す、乾燥すれば全体は渦卷す (**Rosulatae**) *Selaginella tamariscina*
 - 莖は獨立斜上生、下半より太き根柄を出して其の先不定根を生じて莖を支へ、匍枝を生ぜず、莖の幅は葉を合して 9 ミリにも達す (**Ascendentes**) *Selaginella Doederleinii*.
 - 莖は直立し、不定根を生ぜず、根は皆基部より生ず、長き匍枝を走生す (**Caulescentes**) 6
 - 莖は地上を蠕蠕し處々より不定根を生じ、又直立、斜上の枝を立つ、多年生又は年内短命なり (**Decumbentes**) 7

6. 枝は無毛なり *Selaginella pachystachys*.
 枝は微毛を生ず *Selaginella biformis*.
7. 年内死滅短命なり、匍匐する部分より直立又は斜立する枝を分つ、円錐穂は細長にして、まとまりたる円錐穂をなさず、而も往々分枝す、苞葉は尋常葉と同一にして甚だ疎に排列せり (Apodae) 8
 永存性にして全然匍匐蟠延す、円錐穂は短くして、よくまとまり、苞は尋常葉と形を異にす (Stoloniferae) 9
8. 円錐穂枝は直立し、其下半の葉は頗る微小なるを以て枝は穂柄の状を呈す、葉は小形鈍頭全縁又は微齒あり *Selaginella helvetica*.
 円錐穂枝は斜立し、葉は前者より大にして先端尖鋭少くとも上半部には微齒あり、發育上大小の差大なり *Selaginella nipponica*.
9. 總ての葉及び苞は縁邊に長き纖毛を生ず、先端には長き髭あり
 *Selaginella lutchuensis*.
 葉には微齒あるのみ 10
10. 脊葉は唯鋭頭なり *Selaginella japonica*.
 脊葉は漸尖頭なり 11
11. 各葉の基部は殆ど全縁なり *Selaginella kelungensis*.
 各葉の基部には纖毛あり *Selaginella utchinensis*.
12. 大形にして莖は徑 1 ミリあり、腹葉は長さ 3 ミリあり、円錐穂は長さ 10-17 ミリあり *Selaginella longicauda*.
 小形にして莖の徑は二分の一ミリあり、腹葉は長さ 2 ミリあり 13
13. 腹葉は密に相接して排列し、円錐穂は幅さ 3 ミリあり *Selaginella boninensis*.
 腹葉は疎に排列し、円錐穂は幅さ 1,2 ミリあり *Selaginella heterostachys*.

各種の要記

捲柏屬 (*Selaginella*)

第一亞屬 同形葉亞屬 (*Homoeophyllum*)

各葉は皆同形にして螺旋狀多列に排布し、苞葉も皆同形なり。

1, こけすぎらん (*Selaginella selaginoides* LINK.)

Selaginella selaginoides (LINN.) LINK. fil. Spec. Hort. Berol. (1841) p. 158; - MAKINO in Tok. Bot. Mag. XVII (1903) p. 146; - YABE et YENDO in ibid. XVIII (1904) p. 173; - TAKEDA in ibid. XXIII (1909) p. 237, fig. 17; - KOIDZ. in ibid. XXXIII (1919) p. 210; - MIYAB. et KUDO, Fl.

Hokkai. et Sachal. I. (1930) p. 61.

石松の如き形態習性を有する小形の草本にして高山に生ず、然れども芽胞に大小あるを以て直に石松類より區別すべし、地上蘚床の上に蠕蜒せる莖より円錐穂を附けたる枝を直立す、苞葉は螺旋狀に排列し葉と共に其縁邊には長形の鋸齒少數あり。

産地：千島、占守島、パラムシル島、ウルブ島；蝦夷、夕張山；本州、八甲田山、早池峯山、烏帽子岳(羽後)、烏海山、飯豊山、至佛山、甲子山(磐城)、谷川岳、白馬山

分布：北周極及高山要素

2, **系ぞひもかづら** (*Selaginella sibirica* Hieron.)

Selaginella sibirica Hieron. in Hedwigia 39 (1900) s. 290, et in ENGL. et PRANTL. Nat. Pfl. Fam. I. 4, s. 671; - MIYAB. et KUDO, Fl. Sachal. et Hokkaid. I. (1930) p. 62.

S. rupestris f. *sibirica* MILDE, Fil. Europ. Atl. s. 262; - TAKED. in Tok. Bot. Mag. 23 (1909) p. 236, fig. 16.

S. Schmidtii Hieron. in Hedwigia 39 (1900) s. 292, et in ENGL. et PRANTL. Nat. Pfl. Fam. I. 4, s. 671.

S. Schmidtii var. *Krauseorum* Hieron. I. c. 293.

是亦石松類の如き形態習性を有する草本にして、莖は地上を蠕蜒分枝し、隨所に不定根を生ず、植物体は次のヒモカヅラよりは太くして葉枝の直径1ミリ半以上に達し、葉は小針狀、縁邊に纖毛を生じ脊面には縦溝を有し、螺旋狀多列に排布す、円錐穂は細形にして小枝の末端にあり、苞葉は皆同形にして四列に排布す、大胞子の面には第一次の網目狀隆起のみ著し。

産地：樺太、利尻島、禮文島、蝦夷島

分布：東西比利亞、滿洲、北朝鮮、オコツク地方、カムサツカ、アリューシャン、チクチル半島、アラスカ

オコツク要素

3, **ひもかづら** (*Selaginella shakotanensis* Miyab. et Kudo.)

Selaginella shakotanensis (FRANCH.) MIYAB. et KUDO. Fl. Sachal. Hokkaid. I. (1930) p. 63.

S. rupestris var. *shakotanensis* FRANCH. apud TAKED. in Tok. Bot. Mag. 23 (1909) p. 237, fig. 17.

S. rupestris (non SPR.) MAKINO in Tok. Bot. Mag. XII (11898) p. 86; - CHRIST in Bull. Herb. Boiss. VII (1907) p. 824; - YABE in Tok. Bot. Mag. XVII. (1903) p. 17; - HAYATA in ibid. p. 28.

S. shakotanensis ALSTON, in Jour. Bot. 70 (1932) p. 61.

前者に類似せるもので、植物体は遙に繊細、針金の如し、葉枝の直径は漸くにして1ミリに達す、大胞子の面には第一次の太き網目と其内に更に第二次の繊細なる網目をも有す。

産地：樺太、蝦夷十州島、千島色丹島；本州：- 陸奥弘前山地；陸中早池峯山；羽前東村山郡山寺及東置賜郡二井宿村、小湯山；信濃戸隠山、八ヶ岳、駒ヶ岳；大和大峯山脈彌山、丹後青葉山

分布：樺太、蝦夷、南千島、本土

第二亞屬 両形葉亞屬 (*Heterophyllum*)

葉は兩型にして脊腹兩様あり、四列に排列す、腹葉は左右二列に排布し大形にして側方に開出し、脊葉も左右二列に排布するも小形にして莖面に平臥す。

第一區 同形葉苞類 (*Stachygynandrum*)

苞葉は一種類にして皆同形である。

第一類 簇生群 (*Rosulatae*)

植物は多莖直立束状生にして匍枝を生ずる事なし、根は莖束の基部より多數簇生す、乾燥すれば全体は渦巻し雨降れば原形にかへる。

4. いはひば (*Selaginella tamariscina* SPRING.)

Selaginella tamariscina (BEAUV.) SPRING, in Bull. Ac. Brux. (1843) p. 136, no. 9; - ALSTON in Bull. Fan. Mem. Inst. Biol. V (1934) no. 6, p. 270, et in Jour. Bot. 70 (1932) p. 62.

Stachygynandrum tamariscinum POLISOT de BEAUVOIS, Prodr. Fam. Aetheogamie (1805) p. 106.

Lycopodium circinale (non L.) THUNB. Fl. Jap. (1784) p. 341.

Selaginella Veitchii MAC-NAB. in Trans. Bot. Soc. Edinbg. IX (1867) p. 10, no. 37. T. 1, fig. 1-5.

S. involvens var. *Veitchii* BAKER, Fern Allies (1887) p. 87, et in Jour. Bot. XXII (1884) p. 375.

S. involvens (non SPRING.) MIQUEL Prol. Fl. Jap. 349; - FR. et SAV. Enum. Pl. Jap. II. 200; - PALIB. Consp. Fl. Kor. III. 39; - YABE in Tok. Bot. Mag. XVII. p. 69; - MATSUM. Index Pl. Jap. I. 361; - NAKAI Fl. Korea. II. 424; - MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. ed. 2, p. 125; - MIYAB. et KUNO, Fl. Hokkaid. Sachal. I. (1930) p. 65.

S. involvens f. *major* et *minor*, MILDE Fil. Europ. (1867) p. 269.

S. pulvinata MAXIM. Prim. Fl. Amur. (1859) p. 335; - REGEL Tent. Fl. Ussur. p. 175.

多數の莖は相集合して密束の合一莖を成し、太くして地下、土に埋れ、甚だ多數

の根を生ず、乾生植物にして、好んで岩上に着生す、天乾燥すれば渦巻状になり、雨降れば開出して扇状、羽状の分枝を張る。

産地： 蝦夷、江差、奥尻島；本州：- 羽後、陸中以南各地；四國；九州；
隠岐、對馬；琉球：魚釣島、伊平屋島；臺灣

分布： 朝鮮各地、滿洲、沿海州、黑龍江州、蒙古、支那、ヒリツピン、
ヒマラヤ、北印度

O. SWARTZ氏が1806年 Synopsis Filicum に *Lycopodium involvens* Sw. として發表せるものは C. P. THUNBERG 氏より日本産品として貰ひ受けしものゝ如きも、G. HIJERONVMUS 氏 Hedwigia 50, (1910) s. s. 2-3 によれば日本産品とは考へられず Sunda 地方産のものなりと云ふ、原品は Lund 大學にあるも予歐洲滯在中之を究めざりき。

THUNBERG 氏日本植物誌に *Lycopodium circinale* L. として擧げしものは THUNBERG'S Herbarium に其品なし、氏の手帳にのみ記せしものゝ内ならんか。

SWARTZ 氏は、氏の *Lycopodium involvens* は THUNBERG が日本植物誌に云ふ *L. circinalis* であると記せども THUNBERG 氏東洋旅行中に他品の誤りて紛れしものにてあらんか。

第二類 斜立群 (*Ascendent*)

莖は獨生、斜上生、基部までよく分枝す、下半より太き根柄を生じ不定根を付けて莖を支へ、匍枝を生ぜず、莖枝の幅は葉を合して一般に著しく廣し。

5. おにくらまごけ (*Selaginella Doederleinii* Hieron.)

Selaginella Doederleinii Hieron. Hedwigia, 43 (1904) p. 41; - ALSTON in Jour. Bot. 70 (1932) p. 93; - et in Bull. Fan Mem. Inst. Biol. V. no. 6 (1934) p. 279.

S. atroviridis (non Spr.) WAREBURG in Monsunia, (1900.) p. 103; - MAKINO, in MAKINO Jap. Jour. Bot. vol. I. p. 124; - MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. ed. 2 (1931) p. 124.

S. Springiana (non ROSENST.) SASAKI, Enum. Pl. Formos. (1928) p. 47.

高さ 35 センチにも達して斜立し盛に分枝す、莖は強太にして下半より處々不定根を生じて是を支へ、莖の基部は皆莖面に平臥せる葉を付け、莖枝の幅は葉と共に 9 ミリにも達す、葉は黒みある深綠色を呈し、腹葉は披針狀卵形にして先端尖り縁邊に稍不明の微鋸齒あり長さ 4.5 ミリに達す、脊葉は卵狀披針形にして先端は針狀を呈し縁邊は明なる微鋸齒を有す。

本品は *Selaginella atroviridis* に類似するも一般に小形にして葉は偽脈を有せず。

産地： 八丈島、甌島、屋久島、奄美大島、徳ノ島、沖永良部島、沖繩島、

臺灣、支那中南部、海南、印度支那

第三類 有莖群 (*Caulescentes*)

莖は直立し通例不定根を生ぜず、下半部は枝を分たず莖面に上向平臥せる葉を附着す、根は皆基部より生じ、長き匍枝を走生す、腹葉を腹面より見れば二本の主脈を有する如く見ゆ。

6, **かたひば** (*Selaginella pachystachys* Koidz. nom. nov.)

Selaginella pachystachys Koidz. nom. nov.

S. caulescens SPRING. var. *japonica* (MOORE) BAKER, in Jour. Bot. XXIII (1885) p. 24; - et in Fern Allies (1887) p. 95.

S. japonica (non MIQ.) MOORE, apd. MAC-NAB in Trans. Bot. Soc. Edinb. IX (1868) p. 8.

S. caulescens (non SPRING) auct. Japon.

S. caulescens (non SPRING) SATAKE, in Tok. Bot. Mag. 48 (1934) p. 269, fig. 17 (1 et 2).

莖は硬直にして高さ 35 センチにも達し直立す、下半は決して枝を分たず莖面に平に上向平臥する葉あり、匍枝は頗る長くして處々より枝を分立す、上半は繁密に分枝し、葉は覆瓦様に頗る密に相接して附着す、脊葉は披針狀卵形にして先端長く尖り全縁なり、複葉は廣卵形にして鈍頭殆ど全く全縁なり、唯上縁の基部に微小齒あるものあり、葉の細胞膜は波状を呈す。

産地： 本州中部以南、四國、九州、對馬、屋久島、種子島、奄美大島、
沖永良部島、徳ノ島、沖繩島、臺灣

本種はカタヒバモトギ (**Selaginella caulescens* SPRING) に類似すれども、葉は全縁にして相互の排列密にして重り合ひ、細胞膜は直ならず。

7, **つるかたひば** (*Selaginella biformis* A. Br.)

Selaginella biformis A. Br. ex KUHN Fil. Afr. (1868) p. 189, nom. nud.; - FORSCH. Gazette IV, Botanik 6 (1889) p. 19; - ALSTON in Bull. Fan. Mem. Inst. Biol. V. no. 6 (1934) p. 282.

S. flagellifera BULL. Cat. no. 225, p. 9 (1886); - DYER in Kew Bull. add. ser. IV (1900) p. 365.

前者に類似すれども莖は條溝を有し、其の先端部垂れて不定根を生じ匍枝とな

* *Selaginella caulescens* SPRING.

S. subcaulescens HAYATA, Icon. Pl. Formos. VII (1918) p. 99, fig. 64 (non BAKER 1884); - SATAKE, in Tok. Bot. Mag. 48 (1934) p. 269, fig. 13.

S. Hayatana KUMMERLE in Ungarn Bot. Blatt. (1927) p. 100.

Distr. Formosa, China, Siam, Ceylon, India.

Dec. 1935.

227

ることあり、莖の下半部の平臥葉は疎生し、莖枝の葉は縁邊に微小齒を有し前者のよりは疎に排列す、枝には微毛を生ず。

産地： 沖縄島

分布： 支那南部、海南、ビルマ、スマトラ、セレベス

第四類 枝直群 (*Apodae*)

一年生一般に短命なり、匍匐蠕蜒せる部分より直立せる枝を立て、又は傾臥せる部分の先より斜上せる枝を立つ、處々より不定根を生ず。円錐穂は細長、まとまりたる円錐穂をなさずして往々分枝をなす、苞葉は尋常葉と同一にして甚だ疎に排列せり。

8, みやまひめたちくらまごけ (*Selaginella helvetica* LINK.)

Selaginella helvetica LINK. Fil. Hort. Berol. (1841) p. 159; - SPRING. in Flora (1838) p. 149; - FR. et SAV. Enum. Pl. Jap. 199; - MIYABE Fl. Kuril. 273; - TAKED. in Tok. Bot. Mag. XXIII (1909) p. 238, et Fl. Sikot. 499; - NAKAI, Fl. Korea. II. 424; - MIYAB. et KUDO, Fl. Hokkaid. et Sachal. I (1930) p. 65.

S. Mariesii BAKER, in Jour. Bot. XXI (1883) p. 44; - Fern Allies (1887) p. 36.

匍匐蠕蜒せる部分より円錐穂を附けたる枝を直立す、果枝の下半の葉は頗る微小なるを以て、穂柄の状を呈す、葉は頗る小卵形鈍頭、全縁又は微小齒あり、大胞子は微小突起を有す。

産地： 南千島、蝦夷、禮文島；本州：- 羽後駒岳、陸中岩手山、陸前刈田岳、羽前山寺、磐城甲子旭岳、下野日光、駿河三峠、佐渡金北山、丹後青葉山、伯耆大山；豊後津民村

分布： 西比利亞、朝鮮、滿洲、支那、ペルシヤ、小亞細亞、コーカサス、歐洲

9, たちくらまごけ (*Selaginella nipponica* FR. et SAV.)

Selaginella nipponica FR. et SAV. Enum. Pl. Jap. II. p. 199 (1876) p. 615. (1878); - KOMATSU in MATSUM. Icon. Pl. Kois. I. p. 161. t. 81 (1913).

S. ornithopodioides (non SPR.) KUNZE, in Bot. Zeit. (1848) p. 341.

Lycopodium ornithopodioides (non L.) THUNB. Fl. Jap. (1784) p. 341.

S. denticulata (non LINK.) FR. et SAV. Enum. Pl. Jap. II. p. 198. - MIQ. Prol. Fl. Jap. p. 349. 390.

S. Savatieri BAKER, in Jour. Bot. XXII (1884) p. 87; - et Fern Allies

(1887) p. 66.

S. shensiensis CHRIST, in Bull. Herb. Boiss. (1899) p. 824. (non CHRIST)

? *S. hachijoensis* NAKAI, in Tok. Bot. Mag. XXXV (1921) p. 149.

匍匐しつゝ、傾臥して斜に起立せる枝を生じ、其上部円錐穂を成す、円錐穂は細長形にして分枝す、脊葉は卵狀披針形にして先端鋭尖なり、腹葉は卵形にして鋭尖なり、皆周縁に微齒を有す、大孢子は微小突起あるを普通となすも成熟の如何により之を認めず他の種々なる名稱を附せらるゝものゝ如し；全体及び葉の大小の變化極めて多き事コスギランの如し。

産地： 本州中部以南、四國、九州

分布： 支那

第五類 蟠 蜒 群 (*Stoloniferae*)

永存性の植物にして莖は有節、蟠蜒匍匐し、處々より不定根を發生す、分枝多し、円錐穂は短くして、よくまとまり、苞は尋常葉と形狀を異にす。

10, ひめむかてくらまごけ (*Selaginella lutchuensis* Koidz.)

Selaginella lutchuensis Koidz. in Plantae Novae Amamiohsimensis nec non insularum adjascentium, (1929) p. 4.

脊葉は披針狀卵形、腹葉は卵形、皆先端針狀に尖り、縁邊に纖毛を生ず；苞は卵狀披針形にして先端長く漸尖頭なり、縁邊には長き纖毛を生ず。

産地： 奄美大島、沖繩島

11, くらまごけ (*Selaginella japonica* MIQUEL.)

Selaginella remotifolia SPRING. var. *japonica* (MIQ.) Koidz. n. n.

S. japonica MIQUEL (non MAC-NAB 1868) in Annal. Mus. Bot. Lugd. Batav. III (1867) p. 185. — NAKAI in Tok. Bot. Mag. 39 (1925) p. 202.

S. Kraussiana (non A. BR.) FR. et SAV. Enum. Pl. Jap. II. 200, et auct. Japon.

本品は臺灣、支那、ヒリツピン、ジャバ、スマトラに分布する *S. remotifolia* SPR. の變品にして、其の正種と異なる處は脊葉の先端唯銳形にして漸尖頭ならず。

産地： 本州、四國、九州

12, おきなはくらまごけ (*Selaginella kelungensis* HAYATA.)

Selaginella kelungensis HAYATA, Icon. Pl. Formos. VII (1918) p. 97, fig. 59.

S. limbata ALSTON, in Jour. Bot. 70 (1932) p. 62; — et in Bull. Fan. Men. Inst. Biol. V. no. 6, (1934) p. 275.

本品はクラマゴケに類似せるも脊葉は漸尖頭にして殆ど基部まで微齒あり、而も葉

Dec. 1935.

229

底は少しく耳状を呈す、*S. remotifolia* とは脊葉が基底耳状を成す事と殆ど周縁に微小齒ありて、彼の葉先にのみあると異なる。

産地：奄美大島、與那國島、臺灣

13, **こくらまごけ** (*Selaginella utchinensis* Koidz. n. sp.)

Selaginella utchinensis Koidz. nov. sp.

(*Heterophyllae - Decumbentes - Stoloniferae.*)

Glaberrima, caule procumbente pallido usque ad 15 cm longo, a nodo radicante, e basi irregulariter ramoso; ramis primariis alternis ramosis plerumque circiter 5-10 mm inter se distantibus; ramulis ultimis usque ad 5 mm longis. Folia ubique heteromorpha fere contigua; foliis lateralibus circiter 2 mm longis, 1 mm latis, oblique ovatis apice acutis basi rotundatis, margine basin versus longius cetera brevissime spinulosis; foliis dorsalibus leviter imbricatis longe ovatis acuminatis basi obscuriter cordatis, margine basin versus longius cetera brevissime spinulosis, apicem versus leviter incurvatis. Strobilus 7-8 mm longus sporophyllis homomorphis ovato-lanceolatis apice aristatis margine minutissime spinulosis.

Nom. Jap. *Ko-kuramagoke*

Hab. Loochoo: insl. Utchina, mt. Onnadake (lg. S. TAWADA! April 15, 1934. no. 99.)

本品の特徴は脊葉卵狀披針形にして長く漸尖頭、基底は稍心状を呈し周縁に微針あるも殊に基部に近く長形の微針あり、腹葉は卵狀長方形にて先端尖り、周縁に微針あるも基部に近く殊に長形の微針を生ず、苞葉は披針形にして鋭尖頭、縁邊に微小刺あり。

産地：沖繩島

第二區 異形苞類 (*Heterostachyum*)

苞葉は兩型にして、小苞は大形葉と同一面上に並列し、大苞は小形葉と同一面に並列す。

14, **むにんくらまごけ** (*Selaginella longicauda* WARBURG.)

Selaginella longicauda WARBURG, in *Monsunia* (1900.) p. 108, t. IV. fig. c.

莖は強太にして徑 1 ミリあり、長く傾臥して處々より根を生ず、腹葉は半心藏狀にして先端鋭形、周縁に微齒あり、脊葉は披針狀卵形にして先端漸尖頭なり周縁に微齒あり、円錐穗を付けし枝の葉は疎に排列す、苞葉は卵形にして先端漸尖頭、周縁に微齒あり、円錐穗を附し枝は斜上立す。

産地：小笠原島

15, ひばごけ (*Selaginella boninensis* BAKER.)

Selaginella boninensis BAKER, in Jour. Bot. XXIII (1885) p. 178;—
et Fern Allies (1887) p. 111.

本品は前種の小形者なるべし、標品に於ける差は、Kew Herbarium に於て兩原品を比較するに、唯莖の太さ二分の一ミリ、側葉の長さ 2,8 ミリなるの他は葉状も円錐穂の形態も全く同一なり、但し孢子は欠如して比較し難し。

産地： 小笠原島

16, ひめたちくらまごけ (*Selaginella heterostachys* BAKER.)

Selaginella heterostachys BAKER, in Jour. Bot. XXIII (1885) p. 177,
et Fern Allies (1887) p. 110;—ALSTON, in Jour. Bot. 70 (1932) p. 62;
et in Bull. Fan Mem. Inst. Biol. V. no. 6, (1934) p. 290.

S. recurvifolia A. BR. apd. WARBURG in Monsunia I, (1900) p. 109.
125;—HIERON. in ENGL. et PRANTL., Nat. Pfl. Fam. I. 4. s. 696. (1902).

S. integerrima (non SPR.) MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. (1925) p. 1551,
et ed 2, (1931) p. 124.

傾臥せる莖は處々より根を生じ、円錐穂を附くる枝は斜上立して分枝す、腹葉は暑半心藏状にして先端尖り長さ 3 ミリあり、周縁には疎に微齒あり、脊葉は直にして卵形を呈し先端は漸尖頭なり、大孢子は微小突起あり。

産地： 八丈島、本州中部以南、四國、九州、對馬、屋久島、種子島、徳ノ島、臺灣

分布： 支那南部、印度支那

日本植物覺書 2

(*Sertum Japonicum* 2, auct. J. OHWI)

大井次三郎

8) ツクシガヤ——學名は小泉先生が前原勘次郎氏の採集品によつて新屬新種として記載された通り *Chikusichloa aquatica* KOIDZ. である。その後九州では肥後の他にも薩摩・肥前・筑後。の諸國にも分布して居る事が明かに成つたが普通の植物ではなく。又 1931 年秋以禮氏が支那の江蘇省にも産する事及廣西省では他の一種 *Chikusichloa mutica* KENG がある事を報告するまでは日本の九州だけに特産のものと思はれて居た。本邦では九州以外にはまだ発見されて居らなかつたが昨秋九月東北地方の羽前國東置賜郡吉島村の水邊で小松農學校長加藤元助氏が発見され。その當時は小花が一層粗澁なので變に思つたが本秋同氏から豊富な生品を送つて頂いたので全く